



下落合小だより

学校目標 よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子

令和6年12月号
 令和6年12月2日
 さいたま市立下落合小学校
 電話 852-2280
 FAX 852-0188
 E-Mail
 shimoochiai-e@saitama-city.ed.jp

子どもは宝です

校長 小田切 倫子

朝晩の寒暖の差が激しい日が続いています。体調管理には、くれぐれも御留意ください。先週の金曜日は児童向け、土曜日は保護者の方々へ向けての音楽会が開催されました。音楽会のテーマは、運動会と同じ「成長」と「感謝」。運動もそうですが、音楽もまた、好きな子、嫌いな子、得意な子、苦手な子がいます。その中で、友達同士が教え合ったり、励まし合ったりしながら、息を合わせ、心を重ねて練習する過程に、たくさんの学びがあります。音楽会をとおしても、子どもたちはまた、一回り大きく「成長」しました。そして、子どもたちの一生懸命演奏する姿や合唱・合奏の素敵なハーモニーに、子どもたちの「感謝」の心を感じていただけましたら嬉しいのですが、いかがでしたでしょうか。私が“音楽好き”であることは、先月号の学校だよりで紹介したところですが、子どもたちの演奏する音楽は格別で、いつも心を揺さぶられます。今回の音楽会でも、元気いっばいの演奏に思わず笑みがこぼれたり、透明な歌声に涙したり、全神経を集中させて難しいフレーズを演奏する姿に鳥肌が立ったり、心から感動し、いつまでも余韻が残っていました。このような姿を見ると、子どもは宝であるつくづく思います。子どものもつエネルギーは本当に素晴らしく、明るく照らしてくれる存在です。

私は、子どもたちが地域の中においても、輝く存在であって欲しいと思っています。まだ小学生ですから、どちらかというところ“お世話をさせていただく方の立場”ではありますが、例え1年生であっても、この下落合小学校区の地域社会をつくる一員であるという自覚をもつことが大切であると考えています。子どもたちに、『立派なこと』や『素晴らしいこと』を求めるではありません。あいさつをしたり、交通ルールを守ったりといった、当たり前前を当たり前にするには、自分自身のよりよい生活習慣を身に付けるだけではなく、この地区の一員として、明るい地域社会をつくらせているのだという視点をもたせたいと思っています。子どもの元気な姿は、子どものあなたが思う以上に、周りを明るくしているのだと知って欲しいのです。そのことを子どもに伝え、浸透させる取組として、先日行われた学校運営協議会に、5・6年生の代表委員の児童に参加をしてもらいました。学校運営協議会における「熟議」というグループ協議に児童が加わり、運営協議委員の皆様から下落合小学校の子どもたちが、地域の中でどのような姿であって欲しいかなどについて話をさせていただきました。下記は、その様子の写真と、参加した代表委員の感想です。



<代表委員の感想より>

- みんなが地域のために地域の一人としてできることがあることが分かりました。また、一人ひとりが意識することで変わってゆくのだと思いました。
- 委員の方全ての方が明るく元気でいて欲しいと思っていたので、登校や下校、校内では今まで以上に自分から笑顔であいさつしたいと思いました。
- 今日来てくれた地域の人たちは、下落合や下小を大切に好きでいる人で、自分も役に立てるよう頑張りたいと思いました。
- 自分もお手伝いに参加して、このふるさとをよりよくしたいと思えました。

学校は、生きる力をはぐくむところです。学校で学んだことを地域の中で実践することをおして成功体験を積み、学ぶ意欲をさらに高める、そんな好循環となるような、地域と共にある学校を目指していきたいと思っています。

早いもので、令和6年の学校だよりは最後となります。本年の、皆さまの御理解と御支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。